

【予稿集】

## 学校図書館活用を促し・支える教員研修プログラムの開発

### —A 特別支援学校の教員ニーズ調査をふまえて—

野口武悟\*, 土井美香子\*\*, 大貫麻美\*\*\*

\*専修大学文学部 \*\*NPO 法人ガリレオ工房, 東京都立城東特別支援学校

\*\*\*白百合女子大学人間総合学部

\*takenori@isc.senshu-u.ac.jp \*\* doodoodoi@gmail.com \*\*\*asami@shirayuri.ac.jp

今日, 特別支援学校を含めたすべての学校において, 学校図書館を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かす」ことが求められている。しかしながら, 特別支援学校では, 学校図書館の環境整備や活用が緒に就いたばかりの学校も少なくなく, 活用に向けた教員研修も喫緊の課題となっている。そこで, 本研究では, 環境整備と活用に意欲的に取り組む A 特別支援学校 (知的障害校) の教員を対象に研修ニーズ等の調査を行い, それらの結果をふまえた研修プログラムの提案を行う。

## Development of teacher training programs to encourage the use of school library Based on the teacher needs survey of A Special Education School

Takenori NOGUCHI\*, Mikako DOI\*\*, Asami ONUKI\*\*\*

\*School of Letters, Senshu University

\*\*NPO Galileo Studio ; Tokyo Metropolitan Joto Special Education School

\*\*\* Faculty of Human Studies, Shirayuri University

### 1. 背景と目的

今日, 学校教育において「主体的・対話的で深い学び」(いわゆるアクティブ・ラーニングの視点を生かした学び)が重視されるようになった。そうしたなかで, 探究的な学習など学びを深める場・機能として学校図書館が注目されている。各学校で教育課程を編成する際の国の大綱的基準である「学習指導要領」が2017年から2019年にかけて改訂され, すべての学校種の総則のなかに「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り, 児童又は生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに, 児童又は生徒の自主的, 自発的な学習活動や読書活動を充実すること」との文言が盛り込まれた。これまで読書指導や読書活動との関わりで捉えられることが多かった学校図書館をどのように「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かす」

のかは, すべての学校種において追究すべき実践研究のテーマといえる。このことは特別支援学校にあっても同様である。

しかしながら, 特別支援学校では, 全国学校図書館協議会の全国調査などから, 学校図書館の環境整備そのものが課題の学校も少なくないことが明らかとなっている。つまり, 学校図書館を活用したり, 授業改善に生かしたりする手前のところに課題を有しているわけである。この課題については, 2019年に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(読書バリアフリー法)が制定されたことで, ようやく改善の兆しが見え始めている。とはいえ, 環境整備が進めば, すぐに活用や授業改善につながるわけではない。学校図書館を活用するのは教員一人ひとりであるが, 教員の学校図書館に関する理解や活用スキルには開きが大きいためである。司書教諭資格取得者を除くと, これまでの大学における教員養成や教員に

なってからの研修のなかでの学校図書館の扱いが小さすぎたことによる。したがって、今後は、学校図書館の環境整備とともに、活用に向けた教員研修が欠かせない。

そこで、本研究では、環境整備と活用に意欲的に取り組むA特別支援学校（知的障害校）の教員を対象に研修ニーズ等の調査を行い、それらの結果をふまえた研修プログラムの提案を行う。

## 2. 方法

2021年1月にA特別支援学校の全教員を対象として「学校図書館に関する意識調査」（以下、アンケート）を実施した。アンケートの項目は、「学校図書館についての認識」「本校の学校図書館の利用」の大カテゴリーのもとに全20問構成とした。

## 3. 結果と考察

### 3.1 アンケートの結果

アンケートの結果、48名の教員から回答が得られた。教員歴は「11～20年」が最多の19名（39.6%）、次いで「20年以上」が12名（25%）など、中堅・ベテラン教員が半数だった。48名のうち司書教諭の有資格者は4名（8.3%）だった。以下、学校図書館の活用に関連する項目の結果を中心に報告する。

「学校図書館は教科等の授業の充実に役立つ」と考える教員は、「そう思う」が38名（79.2%）だった。同様に、「学校図書館は読書活動の充実に役立つ」と考える教員も、「そう思う」が40名（83.3%）となった。一方で、「学校図書館は情報活用能力の育成に役立つ」については、「そう思う」は24名（50%）にとどまった。情報活用能力の育成（情報教育）に役立つという認識はまだ弱いことがうかがわれる。

では、「学校図書館を授業のなかで計画的・継続的に利用している」のだろうか。「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員をあわせて34名

（70.8%）だった。また、「学校図書館を授業の中で活用したいが、どのように活用すればよいかわからない」に対して「そう思う」「ややそう思う」教員をあわせて17名（35.4%）だった。

これらの結果を教員歴とクロス分析すると、「学校図書館を授業のなかで計画的・継続的に利用している」に「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は教員歴「1～3年」の教員が最も高く、「学校図書館を授業の中で活用したいが、どのように活用すればよいかわからない」に対して「そう思う」「ややそう思う」教員の割合は教員歴「11～20年」の教員が最も高い結果となった。若手の教員ほど学校図書館を活用していると捉えており、中堅の教員のほうが活用に戸惑いのある傾向が確認できた。

### 3.2 研修プログラムの提案

2017年度～2020年度にA特別支援学校の司書（外部専門員）に寄せられた相談（レファレンス）の記録をみると、授業内容にあった資料選びや読み聞かせ・お話しに関するものが主であった。

以上をふまえて、次ページの表のような研修プログラムを提案したい。

司書教諭や学校司書のための研修プログラムではなく一般の教員向けの研修プログラムであること、教員自身も学校図書館のユーザであることに留意してプログラムの内容を検討した。全教員の受講を想定した領域Ⅰと、教員の希望に応じての選択受講を想定した領域Ⅱから構成し、各領域のなかに複数の科目を配置した。各科目の受講時間は30分程度とし、領域Ⅰは講義主体、領域Ⅱは演習やワークショップなども取り入れて行うことを想定している。

なお、この研修プログラムのすべての領域・科目を1日で実施、受講することは時間の確保や教員の負担を考慮すると現実的とはいえない。各学校の実情にあわせて、年間を通して数回にわけて実施したり、2～3年かけて実施したりするなど、さまざまな実施形態が考えられる。

表 研修プログラムの内容

領域	科目	主な内容
I	学校図書館の基礎	学校図書館の目的、機能、活用の意義などを知る。
	学校図書館のサービス	児童生徒だけでなく教員も学校図書館のユーザであることや、学校図書館で利用可能な各種サービスを具体的に知る。
II	実践内容にあわせた資料選び	学校図書館が扱う図書資料からデジタルコンテンツまで、特別支援教育の実践内容にあわせた資料選びのポイントを学ぶ。
	学校図書館を活用した授業づくり	学校図書館を活用した授業づくりのポイントを特別支援学校における実際の授業事例などをもとに学ぶ。
	読書活動の実践方法	特別な支援が必要な児童生徒に対する効果的な読み聞かせやお話しなどのやり方を学ぶ。
	学校図書館で高める情報活用能力	GIGA スクール（児童生徒1人1台端末）と学校図書館、情報教育と学校図書館との関わりについて特別支援学校における事例などをもとに学ぶ。

#### 4. 今後の展望

本発表で提案した研修プログラムの領域・科目のうちいくつかの領域・科目については、今後、動画コンテンツの制作を予定している（2022年8月に収録予定）。制作後の動画コンテンツはYouTube等に掲載し、A特別支援学校の教職員及

び他校の教職員に視聴してもらったうえで、アンケートないしヒアリングを行い、その効果や課題を検討したい。最終的には、全国の特別支援学校の教職員に自主研修や校内研修で活用してもらえようような研修動画コンテンツづくりにつなげていきたいと考えている。

#### 文献

- [1] 大貫麻美, 野口武悟, 熊井戸佳之, 二井康文, 土井美香子. 特別支援学校(知的障害)における算数を核とした学びの連続性に関する事例的検討: 学校図書館を活用した「数」概念の構築. 保育・教育の実践と研究: 初等教育学科紀要. 2021, no.6, p.19-27.
- [2] 熊井戸佳之. 知的障害特別支援学校における学校図書館を活用した授業改善の実践: 館長(校長)を中心とした体制整備とカリキュラムマネジメントのもとに. 学校図書館. 2021, no.851, p.50-52.
- [3] 土井美香子, 大貫麻美, 熊井戸佳之, 野口武悟. 特別支援学校(知的障害)の理数教育における学校図書館活用への展望: 教員ニーズ調査から. 日本理科教育学会第71回全国大会, 2021.
- [4] 野口武悟, 児島陽子, 入川加代子. 多様なニーズによりそう学校図書館: 特別支援学校の合理的配慮を例に. 少年写真新聞社, 2019, 168p.

#### 付記

本発表は、公益財団法人日本教育公務員弘済会令和4年度日教弘本部奨励金による「特別支援学校(知的障害)における授業改善に資する学校図書館の活用に関する実践的研究」の研究成果の一部である。